

# 日蓮大聖人御書全集

しょきょう

ほけきょう

なんい

こと

諸經と法華経と難易の事

# 諸經と法華經と難易の事

よ どく

くすり

とううんぬん

りゆうじゅ

能く毒をもつて薬となすがごとし等云々。これは、竜樹

菩薩の「難信難解」の四字を読み給いしなり。漢土には天台

智者大師と申せし人、読んで云わく「已今当の説に最もこ

れ難信難解なり」云々。日本国には伝教大師、読んで云わ  
い

く「已説の四時の經、今説の無量義經、當説の涅槃經は易

しんい げ なんげ いせつ しじ きょう こんせつ むりようぎきょう とうせつ なほんぎよう い

信易解なり。隨他意の故に。この法華經は最もこれ難信

難解なり。隨自意の故に」等云々。

問うて云わく、その意いかん。

と い こころ なんしんなんげ ずいたい ゆえ なんしんなんげ ずいたい ゆえ なんしんなんげ ずいたい ゆえ

答えて云わく、易信易解は隨他意の故に、難信難解は隨

こた

い

いしん い げ

すいたい い

ゆえ

なんしんなんげ

ずいたい

じい ゆえ うんぬん  
自意の故なり云々。

こうぼうだいし

にほんこくとうじ

もんじん 思

ほけきよう

弘法大師ならびに日本国東寺の門人おもわく「法華経は

けんきょう うち なんしんなんげ

みつきよう あいたい

いしんい げ

顕教の内の難信難解にて、密教に相対せば易信易解なり」

うんぬん

じかく

ちしよう

もんけおも

様

ほけきよう

だいにちきよう あいたい

云々。慈覚・智証ならびに門家思うよう「法華経と大日経

なんしんなんげ

だいにちきよう ほけきよう

ほけきよう

あいたい

はともに難信難解なり。ただし、大日経と法華経と相対せ

ほけきよう なんしんなんげ だいにちきよう

もっと

なんしんなんげ

げどう

ば、法華経は難信難解、大日経は最もこれ難信難解なり」

うんぬん

にぎ にほんいちどう

にちれん よ

い

げどう

云々。この二義は日本一同なり。日蓮、読んで云わく「外道

きょう

いしんい げ

しょうじょうきょう

なんしんなんげ

しょうじょうきょう

いしん

の経は易信易解、小乗経は難信難解。小乗経は易信

い げ だいにちきようとう

なんしんなんげ

だいにちきようとう

いしんい げ

はんにやきよう

易解、大日経等は難信難解。大日経等は易信易解、般若経

は難信難解なり。般若と華厳と、華厳と涅槃と、涅槃と法華

なんしんなんげ はんにや けごん けごん ねはん ほつけ

と、迹門と本門と、重々の難易あり」。

と  
問うて云わく、この義を知つて何の詮か有る。

こた  
答えて云わく、生死の長夜を照らす大灯、元品の無明を切

りけん

る利劍は、この法門に過ぎざるか。隨他意とは、真言宗・

けごんしゅうとう ずいたい いしんいげ

華嚴宗等は隨他意の易信易解なり。仏、九界の衆生の意楽

したが

に随つて説くところの經々を隨他意といふ。

と  
したが

きようきよう ずいたい たと けんふ

が愚子に随うがごとし。仏、仏界に随つて説くところの

と  
たと せいふ ぐし したが

經を隨自意といふ。譬えれば聖父が愚子を随えたるがごと

きよう ずいじい

にちれん ぎ つ だいにちきょう けごんきょう ねはんぎょうとう かんが  
し。日蓮この義に付いて大日経・華厳経・涅槃経等を勘え  
みそそうろう みな ずいたい きょうぎょう  
見候に、皆、随他意の經々なり。  
と い こた  
問うて云わく、その隨他意の証拠いかん。  
しゅじょう い  
答えて云わく、勝鬘經に云わく「非法を聞くことなき  
しょうまんぎょう い  
衆生には、人天の善根をもつてこれを成熟す。声聞を求  
しゅうじょう にんてん  
むる者には声聞乗を授け、縁覚を求むる者には縁覚乗を  
もの しょうまんじょう さす  
さす だいじょう もと もの  
さす えんがく もと もの  
さす だいじょう  
授け、大乗を求むる者には授くるに大乗をもつてす」云々。  
いしんいげ こうる  
易信易解の心これなり。華嚴・大日・般若・涅槃等、また  
うんぬん  
かくのごとし。

「その時、世尊は、薬王菩薩に因つて八万の大士に告げたまわく『薬王よ。汝はこの大衆の中の無量の諸天・竜王・夜叉・乾闥婆・阿修羅・迦樓羅・緊那羅・摩睺羅伽、人と非人、および比丘・比丘尼・優婆塞・優婆夷、声聞を求むる者、辟支仏を求むる者、仏道を求むる者を見るや。かくのごとき等類、ことごとく仏の前において、妙法華経の一偈一句を聞いて、一念も隨喜せば、我は皆ために當に阿耨多羅三藐三菩提を得べしと授記す』と文。諸経のごとくんば、人には五戒、天には十善、梵には

慈悲喜捨、魔王には一無遮、比丘には二百五十、比丘尼には五百戒、声聞には四諦、縁覺には十二因縁、菩薩には六度なり。譬えば、水の器の方円に隨い、象の敵に随つて力を出だすがごとし。法華経はしからず。八部四衆、皆一同に法華経を演説す。譬えば、定木の曲がりを削り、師子王の剛弱を嫌わずして大力を出だすがごとし。

この明鏡をもつて一切經を見聞するに、大日の三部、淨土の三部等隠れ無し。しかるを、いかにやしけん、弘法・慈覺・智証の御義を本としけるほどに、この義すでに隠没し

にほんこくしひやくよねん

たま

いし

替

せんだん

ぼんもく

て、日本國四百余年なり。珠をもつて石にかえ、栴檀を凡木  
にうれり。

売

ぶっぽう

漸

てんどう

せけん

じょくらん

ぶっぽう

仏法ようやく顛倒しければ、世間もまた濁乱せり。仏法

たい

せけん

影

たいま

かげ

斜

は体のごとし、世間はかけのごとし。体曲がれば影ななめ

なり。

幸いなるは我が一門、仏意に随つて自然に薩般若海に  
流入す。苦しきは世間の学者、隨他意を信じて苦海に沈ま  
ん。委細の旨、またまた申すべく候。恐々謹言。

るにゆう

いさい

むね

もう

そうちう

きょうきょうきんげん

かおう

五月二十六日

日蓮

花押

富木殿御返事

と  
き  
ど  
の  
ご  
へ  
ん  
じ